



調査研究の紹介

全国の「騒音の目安」を作成しました ～全国環境研協議会騒音小委員会から～

調査研究科 門屋 真希子

東京都内の各自治体に寄せられた苦情のうち騒音に係る苦情件数は、平成20年度では2,922件であり、過去10年間を振り返っても、全体の4割を超える高い水準のまま推移しています。騒音苦情の解決に向けて、騒音に関する適切な情報を提供する事が一つの方法であるため、全国環境研協議会騒音小委員会(地方環境研究所25機関)において平成19年から2カ年かけて、全国どこの地域に住んでいても「騒音の目安」となるように、日常生活を送る上でよく接する場面での騒音レベルを調査し、その調査結果を皆様を提供したところです。

騒音レベルの「目安」については、これまでいくつか例示されたものがありますが、示された騒音レベルは最大値であるのか中央値であるのか根拠がはっきり示されていませんでした。しかし今回ご紹介するのは、等価騒音レベル(騒音エネルギーの平均値)を用いて評価したものです。等価騒音レベルは、客観的な騒音レベルと人の騒音のやかましさに対する感覚との相関が非常に高いために環境基準等に採用されています。

調査は、住宅地や商業地域、交通機関の車内、公園や田畑や、スーパーマーケット、病院や銀行(屋内)などを含め約6,000か所測定し、それぞれ調査項目毎に都市部や地方都市など地域等で区分して比較しながらとりまとめましたが、いくつかの興味深い結果が得られました。

戸建住宅が立ち並ぶ地域の騒音レベルを都市部と地方都市部や農村地域で比較すると、昼間と夜間のどちらの時間区分においても山間部を除いてほぼ同じ騒音レベルを示し、昼間は43～44dB、夜間は36～38dBでした。また在来線鉄道の車内の騒音レベルを都市近郊線と地方ローカル線(ディーゼル車両を含む)で比較すると、72～73dBとほぼ同程度でした。一方、家電量販店の店内の騒音レベルについてみると、都心・近郊部は地方都市部より8dB高く、地域による差が見られました。

次に屋内の調査対象項目で比較すると、病院、銀行及び郵便局の騒音レベルは、58～60dBとほぼ同程度でした。また騒音レベルが低いのは、視覚のみを要する図書館の43dB、美術館の47dBであり、五感をとおして展示・解説等を行う博物館の60dBとはレベルに大きな差がありました。飲食店の種類毎に比較してみると、喫茶店やファミリーレストランなど全般的に62～68dBの範囲にありますが、居酒屋では騒音レベルが75dBときわめて高い事もわかりました。

これまでの目安では鉄道のガード下の騒音レベルが比較的高いとされてきましたが、河川などの地域を除いては騒音対策が実施されている場合が多く、常にガードを鉄道が通過している訳ではなく、他の測定と同様に通過していない時間も含めた平均で捉えると、標準偏差は10dB程度見られますが74dBでした。

騒音小委員会では、平成21年度から環境騒音が居住者に対する影響の程度を調査するため、実際に居住している環境での騒音を把握する調査を始めました。皆様是非ご協力下さい。

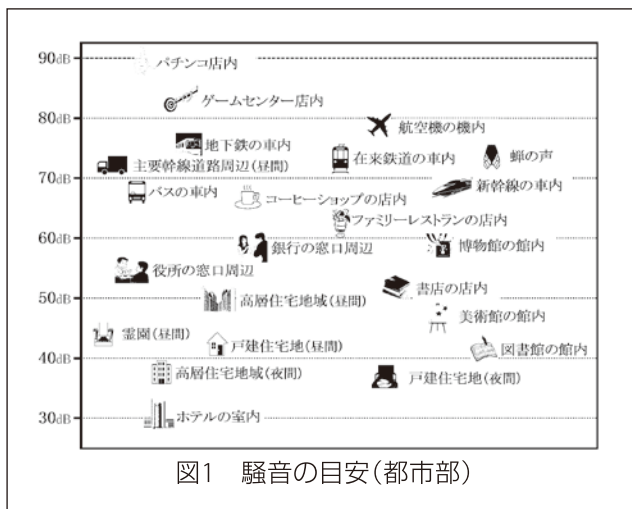


図1 騒音の目安(都市部)